

19. 5. 20. (19. 4. 8.)

◇11 回生入学式式辞(4/8 用)

神戸大学附属中等教育学校長（人文学研究科教授） 藤田裕嗣

11 回生の新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

皆さんが 11 回生と呼ばれる理由は、神戸大学附属学校再編の中、中等教育学校が 11 年前に開校したということです。本校の校長として、この佳き日に、一言、お慶びとお願いを申し上げます。

諸君は、6 年間の小学校生活を先月で終えたところですが、それと同じ 6 年間で神戸大学附属中等教育学校で過ごすことになります。6 年は長いようで、短いものです。過ごす時間の大切さを入学式を迎えた本日から念頭に置いて、過ごしてください。そして、ここにいる人は皆貴重な時を共に過ごす仲間だ、ということになりますね。どうかよろしく願います。

私、について説明すると、神戸大学では文学部の教授をしています。専門は、地理学です。私が地理学教室の扉を叩き、地理学を研究し始めて、40 年も経ちました。最初の段階で先生方に口酸っぱく言われたことは、現場に行くことを重視し、『『観察』をせよ。』でした。テレビで見て、ネットで確認して、終わり、では駄目だ。実際に現地に赴いて、君自身の眼で『『観察』をせよ。』という訳です。私も日本の 47 都道府県を訪れることは、随分と前に軽く達成し、海外の訪問国数も、現時点で 30 を超えています。

昨年の入学式では、地理学でも重要となってくる地名について、特に五大州の州名にまつわる話をしました。私も、オリジナリティが何よりも重視される研究者ゆえ、昨年と同じ話をするのは、嫌いなので、違う話、今回は、本校と神戸大学との協力関係についてお話しします。

本日、入学式の会場は、神戸大学出光佐三記念六甲台講堂です。私自身、出入り口を見通していますが、皆さん自身は背中の方から入ってきましたね。真っすぐ入らずに、右手に行けば、経済学部と経営学部、そして法学部、我々が「社会系」、と総称している神戸大学の一部です。

私自身は、この神戸大学には、兵庫県南部地震が起こった翌年の秋、すなわち、1996 年 10 月に徳島大学から異動して着任しました。私が育った郷土は、大阪大学が位置する大阪府豊中市であり、神戸大学には大学院生時代に、文学部に近いキャンパスに初めて来ていました。まさか、その十数年後に、神戸大学の教員の一人になれるとは、大学院生だった当時は、全く思っていませんでした。

着任後、この私が、本校の校長を仰せつかったのは、神戸大学の教員でありながら、近くにある県立高校との間で連携授業を率先して始めていたからです。このような取り組みを「高大連携」と言います。「高大」とは、高校と大学、という意味です。その詳細について説明すると、長くなるし、中等教育学校に入学したばかりの皆さんにも判ってもらえるように、説明するのは難しいので、ここでは致しません。

私が大学に入学したのは 1976 年で、その時点から将来は、高校教師になるつもりでした。4 年後の学部卒業時に「教育職員免許状」を取得しました。高校 1 年の時に教わった先生が、3 年になった時に、大阪教育大学の助教授になられて、お別れの挨拶をされたのが印象的で、先生のように、高校教師を目指しつつも、大学の教員になればいいなあ、とも考えていました。そこで、その夢を実現しようと、大学院に進んでから自らも努力して、今に至ります。

神戸大学と連携しながら、本校で行っている、ユニークで、特徴的な教育の一端について、これから説明します。

一つは、昨年度から 4 年生を対象に始めた「インターンシップ学習」です。私も校長なのだから、ぜひ率先して、担当すべき、と考えて、手を上げました。私が、文学部で「地理学専修」に入ってきた数名の 2 回生を対象に、必修科目と

して課している「地理学実習Ⅱ」を、本校の生徒にも開放する形にしました。地理学の研究対象は、地表面全体、とありますが、実際に訪れるのは、神戸市とその周辺です。本校の生徒は、数十名程度を指導しました。

この3月に中等教育学校から『実施報告レポート集』が大学に送られてきました。中等の生徒が書いたレポートの文そのままではなく、少しアレンジしてまとめると、「普段なら歴史的意味など考えることはなかったが、改めて考えてみると、自分たちの住んでいる町は、歴史によって築きあげられてきたのだ、と認識できた。また、歴史と地理は、密接に関係しているとも、感じられた。」ということが書かれていて、一読して、「きちんと理解してくれたな」と感じられました。学部生や院生と一緒に学んでいるので、彼らとの交流の中で学んだことも書かれていました。相互の刺激があった、と総括できます。

中等教育学校では、6年一貫教育を施していますが、諸君は、3年後に、一般的には高校生に相当する学齢になる訳です。その年度にちょうど「学習指導要領」が変わります。私が関係する地理歴史科では、保護者の方は全員、「世界史」という科目名で学習されたのですが、新しい必修修科目として、「歴史総合」と「地理総合」が登場します。

本校は、長年、文部科学省から「研究開発学校」を全国で唯一、仰せつかっており、授業の準備は、もう整っています。大学とも連携しています。どうぞ楽しみにしてください。

それから3年後に卒業になります。本校の卒業要件として、「卒業研究」を課しています。保護者の中で大学を卒業した方は、「卒業論文」を書いたでしょう。字数は、大抵2万字なのですが、本校では、その1割減、1万8千字を課しています。これは全国的にもユニークな取り組みであり、新しい学習指導要領で誕生する「探究学習」の先取り、とも言えます。難しいと感じるかもしれませんが、神戸大学の院生によるお手伝いも、用意しています。安心して、準備のためにもじっくり実力をつけるようにしましょう。

私が勤めている文学部では、長年、イギリスのOxford大学と連携しています。そこの東洋学部日本学の2年生が1年間、うちの文学部に来て学んでいます。彼らと、中等教育学校との交流も、長年、重ねてきています。

たくさんある、高大連携事業のうち、本日は、「インターンシップ学習」、「歴史総合」と「地理総合」、「卒業研究」、Oxford大学との連携、の4つだけをお話ししました。今後、大いに期待もりたいものをあげました。

保護者の皆さま、お子さまの入学に謝意を表しますとともに、本校の教育活動に対して物心両面について、今後のご協力をお願いしたいと思います。本日まで出席いただいた来賓の方に対しても、御礼を申し上げます。高いところから失礼ながら、今後、生徒諸君の健やかな成長を祈りますとともに、みなさまには、本校の発展にご協力賜りますよう、お願いして、地理学者としての私の式辞を終えます。

I congratulate you all on your enrollment in our school.

Thank you very much for your listening to my address.

The 8<sup>th</sup> of April, twenty-nineteen, Principal of Kobe University Secondary School 裕嗣藤田